# 東信・池の平～東篭ノ登山～西篭ノ登山　山スキー

2021年1月30日
メンバー：Ｔ野・Ａ原・Ｉ崎・Ｔ山

　日曜日夜9時、ＴＢＳで「天国と地獄」が絶賛放送中だ！！いつもキュートな綾瀬はるかチャンが警察官から殺人者に入れ替わり地獄からの使者のような恐ろしい人格を演じるというサイコサスペンスドラマである。
　えっ、「何を関係ない話をしているのかって！！」いや、実は今回の山行を一言でいうとまさに「天国と地獄」否、「天国から地獄」を地でいく山行だったので、ついこのドラマの題名が頭によぎってしまったのだ。こんもりとした優しい山容の西篭ノ登山が、懐深く入ると、とんでもない密林地獄の山へと変貌したのだ。ただ変貌させたのは、私のせいなのかもしれないが・・・。
では報告を・・・・・。

　前夜は、最近おなじみとなった道の駅「雷電くるみの里」。いつものコンビニで朝食後、湯ノ丸スキー場へ。前回の湯ノ丸山とは反対側にあるゲレンデのカプセルリフトに乗ってスキー場トップまで行き、やや密な森の中に分け入り右寄りに進路を取りシール歩行。多少密だが登りなら全く問題ない。前回同様に天気は良いが恐ろしく寒く、ゲレンデ下の駐車場で - 11℃を示していた。しかしその寒さが心地良い。キーンと冷えて静まり返った森を登って行くとパッと明るく開けて池の平を取巻く尾根上に出た。ちょうど「雷の丸」と「雲上の丸」の鞍部。一気に大パノラマが広がる！！これから登るこんもりとした東篭ノ登～西篭ノ登の稜線、槍・穂高の銀屏風、中アの山々、先日滑った湯ノ丸山から烏帽子の稜線、それに、眼下の池の平の雪原の奥には一目でわかる甘食型の富士山！！八ヶ岳の奥には北岳や甲斐駒も顔を見せている。

*■写真上　光と白銀の世界を歩く！！*
*■写真中　東篭ノ登山（右）と西篭ノ登山（左）*
*■写真下　池の平に向け快適に滑降！！*

ただ、それよりも素晴らしいのは辺りの森の佇まいだ。昨日の雪で森の木々のすべてが白銀に輝いている。素晴らしい！！これだから晴れた日のスキーハイキングは止められない。まさに至福のひと時！！

雲上の丘まで登って池の平に向け気持ち良く1本滑る。雪質、斜面申し分なく、標高差100m程で短いが最高の1本。あっという間に池の平の雪原に降り立つ。雪原を廻りこむように歩き、東篭ノ登山の登山口から緩やかな登りを東篭ノ登山に向かう。ここも気持のよい森で豪快な滑降は望めないが、それなりに楽しく滑れそうな森だ。やがて森を抜けると、カリカリで歩きにくいとこもあるが一投足で東篭ノ登山山頂だ。新たに浅間山も顔を見せ、今まで雲がかかっていた根子岳～四阿山の稜線も姿を見せ風、風もく穏やかで気持ちの良い山頂だ。

と、ここまでは間違いなく「天国」。ここからもと来たルートを滑って湯ノ丸スキー場に滑り込めば、今日も最高のスキーハイキングになること請け合いだ。ただ、ここは2006年にトレースしたことがあり、西篭ノ登山も滑っている記録があるので今回は西篭ノ登山を目指すことにする。

これが「地獄」への第一歩だった。西篭ノ登山への稜線は樹林が密で全く滑れず、特に鞍部までの下りは岩や木が邪魔してスキーで降りるのに苦戦する。でも後から考えると、この辺りはまだ「小地獄」、鞍部からの登りは問題なく歩け、丘のようにこんもりとした西篭ノ登山に着いた。

*■写真上　気持ちよく滑降するＡ原さん。*
*■写真中　池の平から滑った斜面を望む。*
*■写真下　東篭ノ登山山頂にて。*

ただ、ここから気持よく滑降できそうなスペースが全く見つからない。Ｉ崎さんが少し戻って滑ることを提案してくれたが、逆に少し先に行ったところに、より広いスペースがあったのでリーダー判断でここから滑降することにする。これが間違いのもとだった。スペースはわずか1ターンで終わり、今まで経験したこともない密林ジャングルに突入した。体は通っても板が通らず、板が通っても体が入らず、ザックは引っかかるは、顔を引っ掻かれるは・・・散々のやられようだが、それでも板と体を強引に木と木の間にねじ込みながら下降していく。まさに10年に一度あるかないかの特別警報級のジャングル地帯だ。

1㎜も滑降できず、ただただ木にぶら下がりながら標高を下げていくしかない。地図を見ると記録のルートとかなりずれていて、北西に延びる尾根上にいる事がわかる。本来は南に降りるのが記録のルートだ

が、このジャングルの中でのルート修正は不可能、このまま強引に降りるしかない。こうなると、Ｉ崎さんが提案したルートが記録のルートの入口だった可能性が高い。これは完全にリーダーの判断ミスだ。疲弊しながらもＩ崎さんが特攻隊長で強引にジャングルをかき分けて下降すると、ようやく沢床に降りれて、少し樹間が広がってきて何とか滑ることができるようになった。ただ、そのころには傾斜がほとんどなくなり滑降というより推進滑降。いやはや「二度と来るか！！」と毒づきながらわずか450mの標高差を2時間半近くかかって這う這うの体でようやく湯ノ丸スキー場に下山した。

*■写真上　東篭ノ登山から西篭ノ登山を望む。*
*■写真下　西篭ノ登山山頂にて。*

しかし、後でよくよく考えてみたらこれは自分のミスである可能性が極めて高い。「のど元過ぎれば熱さ忘れず」ではないが、冷静になって考えてみると、まあまあ快適に滑降できたという記録のあるルートをぜひ確認してみたい！！という気持ちがムクムクと湧いてきた。もし行くなら、スキー場のベースからアプローチしてスペースを確認しながら記録にある滑降ルートから登ってみたい。

「それで、もしスペースが見つからなければ・・・？」その時は「小地獄」の尾根を東篭ノ登山まで歩いて東篭ノ登山から下山すればよいだろう。いつか実行してみたい。

ということで、メンバーにはホント申し訳ないことをしました。山頂でＩ崎さんの提案を受け入れていれば、もしかしたら記録にあるルートに乗り、それなりに滑降が楽しめたのかもしれません。

ということで今回、まさに「天国から地獄」的な山行になりましたが、それでもポジティブに考えれば本格的な藪下降のトレーニングができて、ある意味充実した山行が楽しめました。
エッ、「全然反省してないって！！」・・・・以後、気をつけます。

下山後は先日行った「湯っ蔵んど」でゆっくり汗を流してついでに食事（結構おいしくて、ここは温泉だけではなく食事するのもお奨め）、そして同じく先日行った妙高の快適でリーズナブルな宿「一富久」で宴会を楽しみ明日に備えて爆睡した。

■コースタイム
スキー場トップ（8:55）～（9:40）雲上の丘（9:55）～（10:00）池の平～（11:24）東篭ノ登山（11:45）～（12:20）西篭ノ登山～（14:45）スキー場